

令和元年12月9日 議会改革特別委員会 議事録
10時44分 開会

○出席委員 (8人)

委員長 寺岡 公章

副委員長 日域 究

委員 藤川 和弘、小中真樹雄、小田上尚典、西村 一啓、網谷 芳孝、
山崎 年一

議長 細川 雅子

○欠席委員 なし

○寺岡委員長 議会改革特別委員会を開きたいと思います。定足数は達しておりますので、よろしく願います。

本日の日程は、我々の委員会として取り組んでいくべきこと、優先順位の決定というのが、きょうの会議の目標となります。

これは前回皆さんに御案内して、御了解をいただいたところでございます。具体的にそれぞれの委員さんから、これをやるべきじゃないかというふうな御意見を頂戴しながら決定をしていきたいと思います。

一つ、前回、自由討議について随分意見を交わしました。自由討議は、まずは我々の委員会の中で組み込みながら、トレーニングをしながら、やっていこうというふうなのが一つ決まっているところです。残りのこの委員会としての余力も考えながら、この2年間のうちでこういった改革が必要だと、試行を伴うものは試行期間も設けながらやってみてはどうかというところで決定をしていきたいと思います。

参考までに申しますが、先々月、皆さん方からいただいた意見、それを先月ですかね、こういった格好で、それぞれの委員さんのお考えというところをまとめています。①が年明けぐらいからできるのではないかな。②が年度明けぐらいまで練ったらできるのではないかな。試行も含めてですね、できるのではないかな。③が1年半程度。④が3年半程度。⑤が議会のあり方が大竹市市議会のあり方が従来のものと大きく変わるのではないかなという御意見。⑥が今の時点で取り組むべきではないのではないかなといった御意見です。⑦につきましては、それぞれで優先順位をつけていただいたものを今お示ししております。これはあくまで参考です。アンケートをとるときに、委員のそれぞれの委員さんの御意見というのを整理するのに、表を活用してくださいというふうに申し添えておきましたので、あくまで参考ということですね。議論の中でお考えも変わってくることもあるでしょうから、それも踏まえて決定をしていきたいというふうに思います。

それでは、決めていきたいと思います。試行も含めて御意見を頂戴したいと思うんですけども、どちらから行きましょうか。できれば皆さんから御意見頂戴したいんですけど。

発言を許しますが、いかがですか。

小田上委員。

○小田上委員 おはようございます。

まず、会派内でどういう方向にしていこうかというところを検討しまして、2はやったほうがいいのではないかとというところで、同時並行として14の情報提供というのをやっていったほうがいいんじゃないかという意見ですね。

この14、議会議員としての情報提供に取り組むというところなんですけど、議員としての情報提供というのはどうしても個人のことになるので、議会としての情報提供を発信というところに絞っていけば、議会内でできるんじゃないかというところですね。

あとは情報の発信、問題点というか、今現状なかなか難しい点として、会期の日程だったりとか、というものがホームページ上に出るのですが、なかなかリアルタイムで更新されない。傍聴に来たいな、いつあるのだろうと予定をあげようと思ったときに、どうしても今のホームページの更新の仕方であれば、1日前だったりとかという委員会ですね、委員会の開催日1日前、2日前にわかりました。じゃ、休んで行こうか、時間つくろうかって難しいと思うんで、こういう日程等もリアルタイムに発信できたらどうかなというところ、これは同時並行で自由討議とあわせてやっていけるのではないのかというところもあります。

あとは、議長がSNSをつくって発信していくというのも、議長は議会の代表ですからありなんじゃないのかというところ、このあたりはアカウントをつくってしまっただけで発信していくというところは比較的簡単にできようと思うので、すぐできるかなと。それで、同時並行でやっていったほうがいいんじゃないかという意見が出ています。

以上です。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

済みません。先頭を切って御意見を言っていた後で申しわけないんですが、改めてつけ加えますと、来年の令和2年3月と9月に進捗状況の確認と活動計画の見直しということも約1年半の間の予定には入っています。ですので今いただいた御意見も含めて、途中で見直すということもあり得ますし、試行期間というものもこの後に決定していけば、例えば1カ月やってみようとか、それもありですし、半年やってみようという、そういった試行のやり方もありかなというふうに思います。それをした上で、活動を見直していくということになるかというふうに思います。

ほかの委員の皆さんの。

藤川委員、どうぞ。

○藤川委員 おはようございます。

新和会でまとめた意見を述べさせていただきます。前のときに、自由討議の制度導入になりますが、それに加えて、それを決まった上で私どもは11番、決算特別委員会などの各委員会ですね、意見を正式に議会提案というのを2番目にやっていただきたいなというふうにまとまりました。その理由は、やっぱりせっかく自由討議になりますので、各委員会の要望などを自由討議でまとめて議会提案してみてもどうか。また、各委員会だけでは意見が反映なかなかできないと思うので、全員でできれば自由討議で意見を集約して提案したらいいのではないかとという結果になりました。

お願いいたします。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

これはですから、決算特別委員会・予算特別委員会以外の全員の議員も含めてということとで提案したらどうかということですね。はい、わかりました。

ほかいかがでしょう。

小中委員。

○小中委員 私は一人会派なので中川議員と話しましたが、私は議員定数市民アンケートというか、私は議員定数削減が持論ですので、これをできるだけ早く取り組むべきだと考えておりますが、中川議員はまあそんなに今すぐ急がなくてもいいのではないかという御意見でした。そのほかのことについて余り深くは、自由討議ということが俎上に上っていますという話しかしてないんですが、メーンの市民アンケート配布とか、議会報告会で意見交換というのをすべきかどうかということについては、意見が分かれたというところでございます。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

議員定数についてのアンケートを議会がつくったアンケートをとったらどうかという御意見ですね。ありがとうございます。

続いてどうぞ、網谷委員。

○網谷委員 我々の会派では、自由討議は基本に置きまして、優先順位ということでございますので、第一にすぐできるような経費もそんなにかからないような状態で、議長主導のSNSの発信ということで、これは議会・議員としての情報提供に取り組むという14番目にも関連しますので、その2番の議長主導のSNS発信ということで、またこれもすぐにも取りかかれるのではないかということで、4番目のネット中継ですか、委員会中継のほうは難しいかもわかりませんが、ネット中継のほうはこれも並行でできれば、できるのではないかということで、そういうことでございます。

よろしくお願いします。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

網谷委員と私は同じ会派ということもあるので、補足をさせていただきますと、14番の情報提供を中心に置いたときに、すぐにできるものとして2番のSNS、それから少し研究をして、テレビ中継はともかくとしてネット中継は比較的スムーズにできるのではないかとこのところで話をしたところです。

ほかいかがでしょう。

西村委員。

○西村委員 私のほうは、先ほど小田上委員が同じ会派でまとめて話をしてくれたんですが、あわせてSNSの発信についてネット中継も必要じゃないかということと。それからもう一つは、14番目にあります議会・議員としての情報提供、これは15にあります議員の能力のレベルアップにつながるということで、情報をもっともっと議会から発信することを私は希望しております。

以上です。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

今の2番は明確におっしゃられたのですが、ネット中継も触れられましたが、これも議論されたのですか。ネット中継についても触れられましたが、それは特に御意見の中に含まれないと思っていいですか。

〔発言する者あり〕

○寺岡委員長 2番のほうですね。はい、わかりました。

ほかあとは山崎委員と、はい、どうぞ。

○山崎委員 せっかくこのアンケートをとられたんですから、私が思うのにはこの数の多いところから、順次とっていったらどうかというのが率直な感想でございます。

それと、もう一つ、議長主導のSNSという要望、かなりあったように思うのですが、私は議会事務局にホームページがあるわけですし、それぞれの議員がしっかりと情報提供はするという立場であるべきだろうと。議会として議長主導というのは、むしろ疑問があるなというのがあります。

それと、もう一点。数の多いところから進めていったらどうかという意見と、今回、市議会議員選挙が無投票という結果を受けました。このことについてやっぱり市民としては、かなり関心が高いという実態があるわけですね。そういった中で、定数問題をここであえて取り上げなくてスルーしていくと、私はかえって議会不信が起こらないのか、市民の関心が無投票だったということに非常に関心があるわけですから、やっぱりそこには素直にまずそこへ入って行って、市民の皆さんに安心してもらえるような体制をつくっていきたいと考えています。ここで今スルーしていくと、かえって市民の皆さんから議会不信を受けるような気がするので、ぜひこのことについても定数問題は5番目ですが、直ちに取りかかるということについては、これはすぐできる、かかり始められるという意味なのか、もっと先でもええという範囲なのか、わかりませんが、いずれにしても私はここは避けて通れんような気がします。大体そんなところで考えております。

以上です。

○寺岡委員長 5番をやるべきだというふうなことを言われました。よろしいですね。

副委員長いかがですか、はいどうぞ。

○日域委員 済みません。うちは会派でこの話をしてないので、個人の意見になりますが、さっき山崎委員が言われたことですが、例えば、市長というのは行政の最高責任者唯一の執行者ですが、議会というのは合議体ですから、議長がどんどん発信する議会って余り聞いたことがないので。議員がよその町とか国会議員とか、個人がいっぱい出していますけども。そんなのをしたらいいのかなと思いますが。ただ、根底に委員会とか、本会議はユーチューブにも出ていますけども、この委員会の様子がわからなかったら、情報発信するといっても難しいところがありまして、やっぱりベースがわかって初めてあれはこういう意味だったとか、あの人がこう言ったけど私はこう思うとか、そういうので情報のベースがあるためには、さっき委員長が言われたみたいに、テレビじゃなくてネット絡みでもいい、何でもいからこの委員会の様子が知りたい人にはわかるような仕組みづくりというのが、まず大前提として必要じゃないかなという気はします。

以上です。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

4番ですね。

それぞれ御意見を頂戴しました。今の中で多かったのが、情報の発信・情報提供ということに絡んで、SNSとネットの中継。それから、市民の皆さんの意見を聞くというところで、定数に関するアンケート。それから、決算特別委員会・予算特別委員会の意見をしっかりと要望として議会として執行部に伝える、要望を出していく仕組みをつくると。こういったあたりが中心かというふうに思います。随分絞られているなというふうに思いました。自由討議の仕組みも今から考えていかなければなりません。どういうふうにすれば実現できるか、どのタイミングで試行をしてみるか、常任委員会の委員長さんにも依頼をしなければいけないでしょうし、そもそも議長にやらせてくださいとお願いをしなければなりません。そちらのほうの組み立ても並行しながら、そっちはもう決まりましたからね、それをやりながら、では何ができるかというところで意見交換をいただいております。

山崎委員から2番については反対であるといったそういった旨の御意見も出ましたけれども、どうしましょかね、どういった意見でも構いません。2番を中心にまさに自由討議をこれからしていこうというふうに思うのですが。ある程度まず討議をしてみたいと思います。

では、発言を許します。どうぞ。

小中委員。

○小中委員 この議長主導のSNS発信でこれはその中身が曖昧というか、その中身がはっきりしないと、その賛否を論ずるのが非常に難しいんですが、どういう内容が想定されているかというのを提案しているグループに説明していただきたいんですけど。これだけだと私にはよくわからないので。

○寺岡委員長 もう少し具体的にどういったものをイメージしておられるかというところを説明をいただきたいと思います。先ほど、山崎委員のほうからは、議会の長としての主導のSNSというのがどうなのかというふうな御意見もありましたが、そこら辺もあわせて提案された委員さんから何かあればお願いします。

小田上委員。

○小田上委員 会派内でもですし私個人の意見としても、議長主導という文言が正しいのかどうかというのもあるんですが、市議会としてSNSのアカウントをつくるというところがまず一つ、これはあったほうがいだろうというところですね。ただ、それが議員個人個人が勝手に投稿して行って、やって行って整合性がとれるのか、個人的な意見の発信にならないのかというところを鑑みると、やはり中立的な立場で議会の運営をお願いしている議長ですから、議長が大竹市議会のアカウントをというところで発信をしていくと。別に議長の意見を発する場というふうには考えてないです。例えば、こういう委員会が開かれますとか、本会議がいつからですとか、日程が決まって、市のホームページはどうしてもいろんなところを通していかないと出せない。ホームページ上に上がってこないところを、議会内でもう決まったことだから議長の判断で出していいよねというところは議長判

断でスムーズにできようかと思うので、リアルタイムの更新というところはかなり議会内でのSNSがあればいいのかなというところです。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

ほかは御意見いかがですかね。このあたりからも出ましたけど。

補足はないですか、よろしいですか。山崎委員補足とかじゃないですよ。山崎委員。

○山崎委員 何の補足ですか。

○寺岡委員長 今の小田上委員に対する、小田上委員の意見に対する補足というところで。

はい、西村委員。

○西村委員 今、小田上委員が言われましたけど、一応、2番目の議長主導のSNS発信と14番目の議会・議員としての情報提供、これは私関連があると思うんです。補足として。それどういうことかといいますとですね、私も4年間議員させてもらっておりますが、市からいろんな情報が最近タブレットにようけ入ってきます。全員がそろったようなところへ参加しとるというのは、ほとんど見受けられません。ということは、私が再三言ってる15番目の議員の能力は別ですが、そういう議員活動のレベルアップにつながる、そういう意味でのSNSというのは必要じゃないかと思います。それが特に議長という名前が今、小田上委員もおっしゃられたんですが、議会としてそういう情報は常に発信してもらいたいという思いでございます。

以上です。

○寺岡委員長 議会ということは、例えば、事務局も含めてというふうに思っているんですかね。はい、ありがとうございます。

網谷委員、特になければ。ありますか。はい、どうぞ。

○網谷委員 先ほど、議会事務局からホームページに情報が出ているから、意味のないという、まあそれでいいのではないかという言葉もございましたが、それはそれとしまして、ダブるところもあってもいいんじゃないかと思ひまして、議長といっても議員のトップでございますので、それはその中の視点がございまして、議会事務局とダブることも多少あるかと思いますが、やっぱり議長としての立場、議員も含めての意見もあろうかと思ひますので、やはり議長主導というのにも必要ではないかと思ひます。わかりますかね。

○寺岡委員長 今のお話を受けとめると、議長が一議員としての性格もはらんでいるようなふうに受けとめたんですけど、そういうことですか。

○網谷委員 もちろん議長も一議員でございますが、その中の言うても議長ですから、議員の長でございますので、やっぱりその全体の事務局も含めて16人の全体の議員の・・・方も含めて、議長がまとめてそういうのも発信するのも必要ではないかということ。もちろん会派がそれぞれありますので、その中でもいろんな面で議長なりの意見を発信したら、また違った意味で市民の皆さんも情報が全体の事務局だけじゃなしに、全体の中の把握ができるのではないかと思ひまして、そういうことでございます。よろしくお願いします。

○寺岡委員長 あくまでプライベートな意見ではなくて、公の長としての全体を見たものの、決まったこととかの発信、やったことの発信というそういうふうでいいですか。

○網谷委員 そうです。

○寺岡委員長 山崎委員も手を挙げかけられましたが、小中委員から口火を切っていただいたんですけど、いかがでしょうか。

○小中委員 議長主導というのは、議長の意見を述べるとかそういうのじゃなくて、議場で議事整理権というか、交通整理してるという、そういうのであれば構わないと思いますけど、議会としてのSNS発信のそれを整理するっていうんだったら構わないと思いますけど、そうじゃない意味での主導ということだったら私は山崎委員と同様に反対です。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

小田上委員、振って申しわけないですが、具体的にこういうことというのはありますか。はい、どうぞ。

○小田上委員 具体的に一番個人的に感じているところは、この委員会、きょうホームページまだ見てないのですが、恐らく日程が入ったとしても数日前のはずです。議会改革という、市民の方からしても興味あるところをいつやるのだろうというのが、私たちはもうわかっていますよね。議会運営員会で諮られて、もう最初の段階で、きょう基地周辺対策特別委員会が終わったタイミングでやるとわかっているからここにいるわけで、そのタイミングで市民の方もわかれば、タイミング誤差はあると思いますよ、1日誤差があったとしてもかなりの期間時間をつくることができると。本当に興味があれば傍聴に来れると。もちろん来れなければネットというところもさっきも言われていますけど、まずその取っかかりとしての情報発信というものが欲しいのと、それができるのは議会事務局を通しての市のホームページじゃなくて、議長がさっき小中委員に言ってもらった、すごくわかりやすく言っていただいたんですけど、交通整理というか、整理していただいて、早く早くリアルタイムに更新していくというところをイメージしています。なので委員会の日程だったり、決まったことを素早く発信するというイメージです。

○寺岡委員長 はい。今、小田上委員が決定事項をホームページより先に、リアルタイムで情報が発信できるというのがありました。プラスして、議長が公務でいろいろな場所に行かれたり、やられていることがあります。例えば、中国市議会議長会であるとか、全国市議会議長会であるとか、そういったことも議会日誌には書かれることが多いのですが、行ったその日に現場で書くこともできますし、議長会に出席して、このような議題について話し合いましたというふうな報告もできるし、議会日誌に載せないような公の公務についても発信することもできますし、大竹市議会動いているのだなというなのが、市民の皆さんに伝われば情報発信といえますか、興味・関心というのに少しはつながっていくかなというふうに思います。アカウント名も大竹市議会議長とかではなくて、大竹市議会何々君とかキャラクターをつくってもいいですし、そういったものでしてですね、中の人は議長でも局長でもよろしいのではないかなというふうに思っているところです。議長・局長でないと、さすがにいけないかなというふうに思います。ただ、書き方によってこれは書き過ぎだねというふうな罰則とまではいかないにしても、みんなで確認し合う場面も必要になってくるかなというふうにも若干は思っております。

今、2についていろいろ意見出ていますが、ほかにありますか。2のことでもいいのですが。

どうぞ、副委員長。

○日域委員 今回の聞いてまして、そうかなという気はします。さっき、委員会の情報を何らかの方法で出すと言いましたが、正直言いまして、我々も本会議のことは確認しやすいけども、委員会のことは自分が傍聴したか喋ったかの記憶以上のものは、議事録といったらもうしばらく先にならんと出てこないし、やっぱそういう意味で市民に知らせる前に我々が共有したいこともありますし。さっきの議長はいろんなところに行かれますよね。さっき、委員長言われたみたいに。我々何しに行ったか知りませんよね。あちこち飛び歩いている。形式的なものもあるでしょうし、本当に大竹市のためになるものもあるでしょうし、その辺で長々とはなくても、こんなことで、こんなことで、あそこへ行って、あのひとこの人と会って、こんなことを陳情しましたとか、こんな情報を仕入れてきましたっていうのは、市民も我々も議員も共有できたらいいなと思います。そういうことにおいて言えば、いいのかな、ですね。議長の個人的なものについて実際難しいと思いますし、それは余りないと思いますけどもね。長として、今委員長おっしゃったやつで、私基本的に賛成なんですけども、名前とはあれ、この議会の動きを皆さんにわかりやすく提供しようということで、そういう意味においては私はいいことだと思います。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

ほかはどうでしょうか。

山崎委員。

○山崎委員 先ほども言いましたが、今の議会主導のSNS発信というのは、たちまちすぐかかれるという意味では2の数しか上がってないわけですね。それ以外に15番とか、あるいは9番とか、あるいは5番、あるいは7番というふうに、もっと先にやるべきことがあるんじゃないかという数字が上がってきておるわけですよ。私は、そういったことを先に手がけていくべきだというふうには思います。それから、今の議長主導のSNSの関係ですが、確かに日程を知らせるとか、そういうことについての発信であれば、それは当然構いませんけども、それなら何も議長主導ということでなくて、議会事務局にSNSをつくって、すぐ発信できるようにするという方法もあるわけですよ。その中で、先ほどから経過報告であったり意見だったりというようなことを議長主導として公費を使ってやるということについてはちょっと疑問があるなど。むしろ、そういうことであるならば議長個人がされるべきだし、委員それぞれがSNSを使って発信できるというふうに、それぞれが頑張っていけばいいわけで、むしろそのことを議長主導としてやっていこうとするということは、私はどうも納得できないというのが素朴な気持ちであります。ぜひ、やるのであれば、行事だけを羅列するという格好になる程度のものであれば、何も別に議長主導ということにはならんで、議会としての日程をしっかりと市民の皆さんに知らせるということの中で、進めていくというほうがいいんじゃないかというふうに考えています。

以上です。

○寺岡委員長 済みません。公費というのが出ましたが、これはどういうことですかね。

〔発言する者あり〕

○寺岡委員長 はい、どうぞ。

○山崎委員 公費がかからんというのは私は知りませんでした。

じゃ、なおさらのことね議会事務局主導でやるべきだというふうに考えます。それで、議長としてやられなくても議員個人としてそれぞれがやっていくと、またそういうことを私知らないもんですから、できるように勉強するということも必要だと思います。そういった方向で、議員個人がそれぞれが発信していくということを最大限にやるように、みんなが心がけるということで解決する問題じゃないかと。日程を知らせるとかなんとかいうことが議会のホームページで無理なんであれば、こういうことを使ってしっかりとシェアしていくということで、議員個人の日常の活動とか日常の報告とかいうのは、議員みずからのSNSあるいはホームページ等で報告していくということのほうが正しいという気はします。

以上です。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

議員がみんなでアカウントをとりましょうという提案にも受けとめれますけども、議会のほうでアカウントをとらなくていいんじゃないかというふうな、そういった御意見だと思いますが。

小中委員、大分議論が進んできましたけど大体いかがですかね。先ほどもやり方によってはありじゃないかという御意見も頂戴しましたけども。

どうぞ、小中委員。

○小中委員 そういう何て言うんですかね。日程とか、どこに行って何々とかいう、いわゆる事実のみを伝えるというのであれば私は構わないとは思いますが、個人的には。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

大分、連番2、SNSについては御意見も出していただきました。まだ何か発言したい方いらっしゃったら、このことについて。この中で言えば藤川委員、特に先ほどの御意見の中では触れておられませんでした、これまでのやりとりを聞かれて何か思うところがあればお聞かせください。

どうぞ、藤川委員。

○藤川委員 SNSですよ、私これそんなにメインに上げていなかったです。これ私の個人の思いですね。それはなぜかといいますと、私自身もSNSをよく発信していますし、やろうと思えばこれはもう正直すぐできることなので、ここで議論するといいますか、そこまで重く感じてなかったです。もうやろうと思えば、じゃ明日からやりましょうよ。じゃ、今すぐからでもやりましょうとできると思っていますので。これはもうやるならやった方がいいと思います。発信するのは、フェイスブック・LINE・Instagram・ツイッターがあります。やるなら全てのSNSですよ。やるならもう、だけど偏ってますかね、やる人やらない人。ツイッターはやりですけど、フェイスブックはやってない。だから、発信するのであれば全て、僕はそこまで詳しくないですけど、1個出したら全部に載るような、確かありますよね。そういったのを利用してですね。確かに、日程を発信するのは私もすごくいいと思います。意見を発信するというのは私もいかなものかと思います。それは個人でやっていただければいいと思うのですが、日程だとか委員会、先ほど、

小田上委員がおっしゃられてましたように、小中委員もおっしゃいましたように、日程発信だとかいうのは全然すぐにでも、何だったらきょうからでも取り組んでもいいかなという思いであります。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

各アプリを同期させて、一斉発信というふうな御意見をいただきました。

ここで諮ってるのは、やはり委員会としての動き、議会としての動きでスタンドプレーになってはならないというところもありますのでね。思いを同じくして、このオフィシャルの場面でしっかり意見交換をさせていただけるということです。御了解をください。

どうしましょう、ほかに意見があったら聞きますが、これの自由討議については結論はまた後ほど出すとして、この程度でよろしいですかね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○寺岡委員長 ありがとうございます。

それでは、その他が14番、それから4番、11番、あと5番あたりが出てますね。14、15あたりも大きな意味で上げておられる方もいらっしゃいましたが、次が、同じ関係でいけば、情報発信ということで委員会のネット中継あたりが近いものかなと言うふうに思いますけれど。この件について御意見いきましようかね。4番、委員会のネット中継について。これは網谷委員のほうから先ほどは出ましたけれども。これを研究していくというのはどうかというところですが、いかがでしょうか。

どうぞ、日域副委員長。

○日域委員 やったらいいと思いますけど、小田上委員に教えてほしいなという気がして。

実は、こういうものっていろいろあるじゃないですか。昔、どこの議会か忘れちゃったけど、ほとんど経費をかけずに議会中継をやるってニュースになったことがあるのですが、まあ失敗したっていう、そのときは失敗したという話でしたけど。工夫すれば、それはお粗末なんだろうとは思いますが、例えば音声だけでも聞けりゃおもしろいところもありますけども、ただ、議会として出すときに、余りお粗末なことやって、途中でぶちっと切れたらイメージダウンですから、そこは難しいんですけども。ただ、日進月歩といいますか、ものはどんどん変わってまいりますから。皆さん元気はいいですけども、元気がいい割にわかってないだろうと、私を筆頭にです。だから、その世界に一番通じている小田上委員に、こういうもしやるとしたらどういう手があるんかというぐらいは、教えてもらわないと議論もできない。できればね、お願いしたいと思います。

○寺岡委員長 端的に御紹介できますか。

お願いします。小田上委員。

○小田上委員 ネット中継について、僕の知り得る範囲とはなるんですが、極端なことを言えばパソコン1台、タブレット、皆さんお持ちの1台があれば中継はできます。インターネットの回線を使って特にお金もかけずですね。例えば、ユーチューブであればすぐに配信もできます。ただ、先ほど、日域副委員長の言われたお粗末にならないようにということ、どこまでのレベルを求めるのかというもので、多少機材が必要だったりする場合もあります。ただ、映像が見れて、誰が喋ってるのかがある程度わかって、話の内容がわか

ってということであれば、もう数千円、まあ数万円もかからないくらいで始められるというところ。この今音声とってますけど、これの音をそのままパソコンにケーブル1本買ってきて入れるだけで中継はできますので。カメラも全てのタブレットに今、ここにあるものにカメラついてないものがないくらいついてますので。簡単にやろうと思えばできます。どこまでを求めるかといえば、青天井でどんどんレベルは求められていきます。なので、やろうと思えばすぐできます。

以上です。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

本会議場で今カメラを3台ぐらいですかね。あれで置いてるイメージとはまた全然違うということですよ。定点カメラで、要は人力もかけずに音声を中心としてやっていくというそういうことなら可能という、それぐらいで受けとめていいですか。

はい、ありがとうございました。

ネット中継、ほかに何か御意見ないですか。

どうぞ、山崎委員。

○山崎委員 開かれた議会、また、市民からしっかりと情報提供をするという議会という意味においても、議会の動きといいますか、リアルタイムで市民の皆さんに報告ができるということについては非常にいいことだと思います。何らかの方法でぜひ進めていただきたいというのが率直なところです。

以上です。

○寺岡委員長 ありがとうございました。

そのほかいかがですか。

よろしいかな。ありがとうございます。

では、これについての討議はこのあたりにしたいと思います。

続いて、さきに出たのが5番、議員定数の市民アンケート、いろいろ御意見も出ました。議会が取り組んで議会で作ったものをアンケートをとるべきだ。それから、無投票への関心が高い、これをスルーするわけにいかないと、そういった御意見が先ほど出たのではないかというふうに思います。5番についていかがでしょうか。

特にないですか。

小中委員、どうぞ。

○小中委員 これは私見ですけども、定数市民アンケートにしても議会での意見交換にしても個人的には早急にすべきだと思っております。まだ選挙は4年先だという意見もあるようですけども、やはり無投票だったということを重く感じて、できるだけ早期にやる必要があるではないかと私は考えております。

○寺岡委員長 ありがとうございました。

ほかいかがですか。

どうぞ、山崎委員。

○山崎委員 定数削減というのは私の個人的な意見ですけども、それを超えて定数を削減になるのか、あるいはもっとふやせやとか、現状でええよとかいうことが、市民の中に議会

として積極的に取り組んでいますよという姿勢を私は今見せる必要があると。でないと、このまんま先送りして、あるいは定数の4年先までに結論を出せばいいという姿勢にしていくと議会不信が募ってくると、こういうふうな思いがするのです。ですからまず議会としては、この問題を避けて通らずしっかりと市民と一緒に研究していくという姿勢をまず打ち出すということが大事なような気がします。

以上です。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

小田上委員。

○小田上委員 この自由討議をやっているというときに、以前この委員会の中でなぜこれを選ばなかったのかというところを今思い返したんですが、このアンケートを誰がするのか、どうやってつくるのか、どんな文言で聞くのか、どんな人を対象に聞くのか、いろいろ問題というか決めていけないといけないところがたくさんあると思います。その決めていくところが多い、とてもやるとしたら大切な上に、偏った意見が出るような聞き方じゃだめだと思いますし、議会として納得できるアンケートをまずつくって、その回答を得なければいけないと。そのときに自由討議という形で、この中が納得してアンケートをつくれるほうがいいのかという意見があったような気がします。そういう流れが。自由討議というものがどういうものなのかというものがしっかりできてからだと思います。

今からは個人的な考えですけど、そもそも議員定数を減らすとかどうとかというところに行く前に、先ほど、山崎委員の言われた積極的に議会改革やっているというところ、これが今さっき上がっていたSNSの発信だったり、ネット中継、まずこの議会でなり手不足だということで、この議会改革特別委員会ができていますが、なり手不足だと思います私は。これだけやりがいがある仕事、いろいろゴールがなくて毎日どうしたらいいだろう、これおもしろいと思えることがたくさんある仕事なのに、やりたいという人が少ない、それは何だろうというところで、まず議員が何をしているんだろうというところだと思います。そういうところをしっかりと伝えていく姿勢をまず見せていって、関心を持ってもらう。関心を持ってわかってもらった上で、なり手不足が解消しない、じゃどうなんだろうというステップを踏んでいけないといけないと思うので、逃げてるわけじゃない、改善するため興味を持ってもらうため、なり手不足をどうにか超えていこうというところは、今しっかり議論されていると思いますし、かなり前向きな方向になっていると思うので、急ぐ必要がないわけではなくて、丁寧にやらないといけないというふうに思ってます。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

ほかいかがですか。

藤川委員。

○藤川委員 今、小田上委員がおっしゃったのに似た部分があるんですけど、私もやっぱり議員のなり手不足、間違いなくあると思います。私は3カ月前、やっぱり議員定数を減すべきだと思う意気込みで入ってまいりました。やっぱり選挙がないんだったら、そうすべきであるのかなとはまだ思ってる部分もあるんですけど、でも今実際3カ月、4カ月、

いろんな方とお話をするようになって、やっぱり減すだけでいいのかなという気持ちにも少なくなってきました。選挙の無投票になるんだったら減すべきとは思いますが。選挙するべきだと常に思ってます。ですが、さて、さあ議会を運営していくに当たって、減すだけで本当にいいのかなという、まだうまくは口には出されないんですけども、やっぱり定数が多いほうがやっぱりいろんな意見も聞けますし、いろんな目線から物事を見れるんじゃないかなという思いもあります。その中継のことも少しまだ触れても大丈夫ですかね。もう触れないほうがいいですか。

○寺岡委員長 許します。

○藤川委員 いいですか。

中継ですね、これも私先ほど言いましたように、これもすぐできることだと思っています。ここの中でお話して、やるならもうすぐ私もやってもいいと思います。先ほど、小田上委員が言ったように、ここに本当カメラ置いて発信することは、きょう今からでもすぐできることですよね。あとは、問題なのは発信して見ていただけるような努力も必要だと。さっきのSNSもそうなんですけど、やっぱり見ていただくためにはどうしたらいいかということをお話し合うべきではないかなと。今、本会議のほうがユーチューブで載っていますよね。あんなの再生回数なんてもう最悪ですよ。下手したら10いかないのもあります。多いのでも30幾らです。僕は結構見えています。この数カ月間、多分、僕だけでも10、20はいつてると思います。ということは大竹市民の人がどれだけ見てないかということです。だからそれをSNSで発信したところで、さあ誰が見るのか、じゃ見てもらうためにはどうすればいいかということまで、お話をさせていただければなというふうに思います。済みません。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

具体的にどうするのかというのは、1年半の行動計画では1月からスタートする予定にはなってます。研究に入るのも令和2年1月からということになるんですけども、長期の仕組みが変わったりするものについて、試行を踏まえながら計画の見直しをしながら、それも要は令和2年1月からリスタートということ。まずは、どこを目指して歩いていくか、進んでいくかということを決めていきたいと思いますので、細かいところはいろいろ討議する中で、情報が必要な場合もあると思いますが、それはまた決まった後に話していくということで、基本的にはお願いをしたいと思います。

今、市民アンケートについてそれぞれ御意見頂戴していますが、ほかありますか。

西村委員。

○西村委員 市民アンケートについて、以前から議会報告会等で収集をしとるわけですが、まず議会改革という名前のもとにやれば、市民の感覚としたら、議員定数削減の話をするのかとか、議員自体の内容を変えるのかということについて走る。また、全国いろいろな市町でも、議会改革と言えば定数削減という話が主に出ます。その前に、私は今回一番大事なものは15番目だと思っています。

全くこの委員会とは別の話して恐縮ですが、例えば、各委員会で管外視察をする。その費用で、1週間かけて毎日この議会室に集まって、講師を呼んで勉強するのも議員のレベ

ルアップ、勉強にもなります。それが本当に正しいのかというのが、今まで協議されてきたかというところは私は疑問にも思う。以前から視察についても行くべきかどうかいうのを悩みます。そういうことをあわせて、議会改革とはということをまず協議をするべきと思う。その中で、先ほど言った議会事務局からいろいろな発信する、繰り返した話になってあれですが、例えば、何々議員様という封筒を、皆、レターボックスでいただきます。さっきも言ったように、ほとんどの議員が全員がでかけとるかというところを市民は見とるんですよ。それが議員のレベルアップ、やるべき議員の仕事だと思います。まずそういう意味でも、取りとめないことなんです、議会改革とはということをもう一度考えてみて、取り組んでいきたいというふうに個人的には思います。

以上でございます。

○寺岡委員長 今のお話でいえば、議会改革といえば定数に触れることがよく言われるが、その前に15番のような議員の能力のレベルアップまたは意識改革、このあたりが根っこにあるのではないかとこのところですね。

ありがとうございます。

これは引いては、議会基本条例の1条、2条あたりをもう一度皆でしっかりおさらいをしましょうと、こういったふうにもとれるのではないかなというふうに思います。

今は5番について主に意見を出していただいておりますけど、そのほか何かないですか。よろしいかな。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○寺岡委員長 では、5番の市民アンケートについてはこのあたりで討議を終わります。

先ほど、最初にいただいた中で、あと11番が残っています。予算特別委員会・決算特別委員会での意見を正式に議会として提案していく。委員会の要望をまとめてまたは議員全員で討議をしながらまとめて、公のものとして執行部のほうに提案をしていくと、そういった御意見であったというふうに思います。11番について御意見ありましたらお願いいたします。

どうぞ、日域副委員長。

○日域副委員長 これもですね、さっきの議長主導というのとは近いところがあるんですけども、いろんな意見が出ますよね。言うのは自由ですから、いろんな費目についてこれをふやすべきだという議員もいれば、そうじゃなくてこっちだという議員もいますから。議会としてまとめて、要望書的にまとめようと思ったら実際難しいんじゃないかなと。現実的には執行部のほうがちゃんとメモとってますから、記録を、その中でできるものは予算の範囲において、かなり使ってると思います。正式に出すというと結構そこでハードルがあるような気がします。実務的にですね。出して悪いと反対する気はないんですけども。ばらばらと皆さんが言うわけですからね。そこのところは考えてほしいと思います。

○寺岡委員長 要望をまとめるのは難しいのじゃないかというところから、ただ、研究をする余地はあるかもしれないねという、それぐらいですか。

〔発言する者あり〕

○寺岡委員長 わかりました。

ほかいかがですか。

藤川委員。

○藤川委員　そうですね。今言われて、何となくイメージがわいてきます。確かに、皆さんの意見がばらばらだと思imasuので、それを一つにまとめるというのは大変なことだと思います。でも、あるテーマがあって、もしかしたら満場一致で手を挙げる可能性もある。それだけでいいですよ。まずそれをやってみて、だめなものはもうそれはもう皆さんの意見がばらばらなので、提案することはできないと思imasuけど、皆さんの意見がそのタイミング、その時期にぴたっと合ったときに、これはやったほうがいいと思うものがあれば、ぜひ提案をしていただければなと思imasu。

やっぱりこの自由討議がせつかく第一に決まりましたので、そのついでと言ったらちょっと言葉が違いますね。テーマを各委員会で上がってきた要望なり何らかのテーマが必ずあると思imasuんですね。せつかくの要望ですので、それをできれば自由討議で皆さんで討論していただいて、流れる可能性はもうほとんど流れるとは思imasu。自由討議で。ですけど、本当先ほど言いましたように、ぴたっと合うときに提案できたらいいんじゃないかなと。まだ私もそれぐらいのイメージで思っています。

○寺岡委員長　ありがとうございます。

ほかいかがですか。

よろしいですかね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○寺岡委員長　明らかに反対といった御意見は聞けなかったかというふうに思imasu。

では、この11番について討議を打ち切りたいと思imasu。

最初に皆さん方から優先順位、これから取り組むべきであるというふうなものは、基本的には討議は終わったというふうに思imasu。この後討論のようなこと、それから採決もさせていただくことを前回予告させていただいておりました。その前に、自由討議、一応一通り終わったところで、オブザーバーの議長から総評をいただきたいのですがいかがですか。こういった感じでよろしかったかどうか、感想を聞かせていただければ。

どうぞ、議長。

○細川議長　皆さんから、議会改革についての本当真剣な御意見をいただいて、もうちょっと多分時間が足りないぐらいでいってるんだろうなと、委員長まとめるの大変だなととても感じました。

こうやってそれぞれの会派からの意見、委員個人の意見を出し合って、それがどういうことかとお互いに掘り下げて共有のものとしていくということをしていけば、今後市民の皆様にも理解いただける、信頼いただける議会になるんじゃないかなと思imasu。やっぱり皆さん共通の意見として、議会の情報をやっぱりもっと発信して、市民の皆さんに理解していただくべきじゃないかといったあたりでは、すごく皆さん今の本当に議会改革の必要性では共通認識になっているんじゃないかなといった感想を持ちながら聞かせていただきました。どの御意見もとてもこれからの議会にとって必要なことを真剣に考えていただいている御意見なので、一つ一つを大事にしながら、これからも議会改革、具体的

なことを進めていただければと思います。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

それでは、決めていきましょう。

前回も討論のようなことというふうに思っているんですが、ここの時点で討論を入れて意味があるのかということも半分あります。先ほどの討議の意見の繰り返しであるかなというふうにも思いますので。まあでもこれも試行です。試しにやってみましょう。今、討論には、でも原案が必要なんです。原案をじゃどうするかというところなんです。私が例えば仮に委員長の今皆さん方の討議を聞く中で浮かんだ案です。あくまで案ですが、それはすぐにできる2番と4番について、まずは年明けから研究具体的にどうするのかというのを進めながら、3月、要はすぐに、もう3カ月後には活動の見直しのタイミング予定が組んであります。そのときに自由討議の様子を見ながら、それから議会からの情報発信の様子を見ながら、アンケートをじゃやっぱり必要よねということになればそこも進めていくし、予算が3月から実際に始まりますから、それを体感しながら具体的にこの意見が執行部のほうにどうやったらまとまって届くのかという研究も始められるかなというふうには感じたところです。ですので、直ちに年明けから始めるのが2と4、3月にもう一度テーブルに上げ直すのが、5と11というところをあくまで討論のための案として提示をしたいというふうに思います。これについて賛成の御意見、反対の御意見、伺わせていただければというふうに思います。

ここは討論ですので、発言は1回のみとさせていただきたいと思います。

では、討論に入ります。

〔発言する者あり〕

○寺岡委員長 わかりました。そうか、どうしようか。

とにかく、1月から具体的にじゃどうすると決め事をしていくのが2と4で、3月にもう一度テーブルに上げ直して情報発信の進行ぐあいであるとか、実際に予算が身近になったときに、この予算特別委員会が出た意見をどうやって執行部に伝えるかという体感をしながらというところで、3月から5番と11番について、やるかどうかのテーブルに上げるというところです。

ちょっと、休憩します。

11時47分 休憩

11時49分 再開

○寺岡委員長 会議を再開します。

この件について山崎委員から、また日を改めて討論採決をしてほしいという要望がありました。しっかりとした議論をして理解を深めた中で、討論また採決に至りたいという思いを持たれているそうでございます。

皆さんこれについていかが扱いましょうかね。

特に皆さんのほうで不都合がなければ、そのあたりは山崎委員に配慮はしたいとは思いますが。いかがですか。

特に反対ないですかね。いいですか。

西村委員、いいですか。

どうぞ。

- 西村委員 きょう、この議会改革特別委員会を開かれて、17日にはそこで発言の機会とか採決なんかするよりは、私はまだ時間がかかってもじっくり練って出すべきと思います。余り早急に採決、採決ということでもないと思います。

- 寺岡委員長 ありがとうございます。

じゃ、同意されるという御意見ですね、今のは。

- 西村委員 同意はしますがね。ただ、すぐにというのはちょっと時期尚早かも知れませう。まだまだ皆さん意見があると思うんです。

- 寺岡委員長 わかりました。

それでは一応、自由討議については先ほど終了しましたので、これについては御理解をください。討論の時間をじゃ次回持つということで、それぞれお考えをまとめていただいて、討論は御存じのとおり1人1回ですからね。それで、採決をしていきたいというふうに思いますが。それを先ほどの御提案では、全員が集まる本会議最終日、12月17日、その日がいいんじゃないかなろうかというふうな御提案でしたけども、よろしいでしょうか。いいですか。

〔発言する者あり〕

- 寺岡委員長 では、おおむね賛意を皆さん示されておりますので、そのように進めていきたいと思います。ただ、先ほどの山崎委員の御提案は貴重な御意見だったと思います。自由討議を重ねて、その要はほかの委員から出た納得する意見にしても、納得できない意見にしても、それを自分の中で消化する時間というのは確かに必要なのかなというふうな気がします。その上で自分がよしとするか、それとも否とするか、そういったのは論理的に考える時間というのも必要なというのも実際にやってみてわかったところだというふうに思います。

ですので、この自由討議のあり方も年明け以降にはまた研究に入っていきますが、まずは12月17日に、その他の優先事項、討論と採決、これを行いたいと思いますけど、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

- 寺岡委員長 御異議ないようなのでそのようにはさせていただきます。

議長からの発言の申し出がありましたので許可します。

どうぞ。

- 細川議長 済みません。次回までにそれぞれが恐らく会派の中でも話し合っけて持ってきてくださると思いますので、よろしくお願いします。

さっき言い忘れたのですが、議員のなり手不足について一つ情報提供を皆さんにしといたほうがいいかなと。このたび、サイドブックスのほうに委員長がアップはしていただいておりますが、先般の全国議長会のほうに出席させていただきまして、その中で決議もしております。全国議長会のほうでも、市議会議長会のほうでも、いろんななり手不足はどこの市町も大変悩んでおりまして、やっぱりこういう方法があるんじゃないかとか幾つか

提案も出ておりますので、ぜひその辺も、あと府中市議会のことも出ておりましたので、これは今回のことには直接関係ありませんが、ずっと考えていくテーマだと思いますので、皆さんも一読しといていただければありがたいと思いますのでお願いします。

○寺岡委員長 ありがとうございました。

議長、忘れておりました、ありがとうございましたアナウンスを。

議会改革特別委員会のフォルダーに参考資料というのを入れていますので、それをごらんいただけたらと思います。

では、次回は12月17日、本会議終了後に討論採決という格好で、当委員会を開催したいと思います。本日はこの程度にしたいと思います。どうもありがとうございました。

11時54分 閉会